

ことなり、

〔歴代皇紀圓融〕内大臣藤兼通元中納言

天祿三年十一月廿七日任四十不經大納言略○中 去十月廿七日宣、太政大臣不從事之間、宜勤行公

務者、即日又召御前曰、朕未更事、汝可爲輔佐者、

〔公卿補任圓融〕關白正三位藤兼通 天延二年二月八日、爲氏長者、廿八日、聽輦車、三月廿六日、詔、帝

御年十六、關白萬機賜内舍人二人、近衛各四人爲隨身、同聽牛車、

〔愚管抄三〕花山院には、義懷の中納言こそは外舅なれば、執政すべけれど、踐祚の時は藏人頭にこ

そ、初て四位侍從に任じて、やがてとく中納言になりて、三條關白藤原賴忠 如元とておはしけれど

も、國の政はおさへて義懷おこなひけるほどに、わづかに中一年にて、不可思議の事出來にけれ

ば云ばかりなし、大入道殿藤原兼家 はこの繼めにと、日比の違恨を思しけれども、外祖舅にもあら

ず、小野宮藤原實賴 の子、九條殿藤原師輔 の子、たゞ同じ事なれば、もと宿老になりて、關白ならん

とおもふべきやうなしと思召けるも道理にて、この時はやみにける、

〔大鏡三太政大臣賴忠〕このおとゞ、小野宮實賴大臣次郎なり、御母時平大臣御むすめ、敦敏少將おな

じはらなり、大臣の位にて十九年、關白にて九年略○中 一條院位につかせ給ひにしかば、よそ人に

て、關白はのかせたまひにき、

○按ズルニ、よそ人トハ、當代ノ外戚ナラザルヲ云フ、

〔日本紀略九〕寛和二年六月廿三日庚申、花山天皇偷出禁中、奉劔璽於新皇、一條七○外祖右大臣藤

原兼家 參入、令固禁内警備、翌日行先帝諸位之禮、右大臣藤原朝臣攝行萬機、如忠仁公藤原良房 故事、

〔日本紀略九〕正暦元年五月八日、詔令内大臣藤原朝臣道隆關白萬機、廿五日、勅聽關白内大臣

乘牛車出入宮内、廿六日、詔以關白内大臣、改關白、攝行政事如昭宜公基 貞信公忠 故事、